



徳島文理大学大学院薬学研究科 OB アチント・サハさん アメリカで活躍

アチント・サハさんはバングラデシュからの留学生であり、徳島文理大学大学院薬学研究科にて2010(平成22)年に博士号を取得しました(博士論文タイトル: Mechanism of cancer prevention with curcumin in lung cancer cells with regard to expression of growth arrest and DNA damage inducible genes, GADD45 and GADD153, 指導教官: 葛原隆)。

博士号取得後、アメリカでの博士研究員を経て、アメリカ・テキサス大学(世

界大学ランキングで東京大学より上位)のResearch Assistant Professorに就任しています。アメリカの研究の世界は競争が激しく、アカデミック・ポスト(大学の教職員)に着任するのはとても大変なことです。2017(平成29)年には世界のトップジャーナルであるNature Medicine 誌に共通第一著者として論文を発表するなど活躍しています。

本学大学院OBであるサハさんの今後のさらなる活躍をお祈りしたいと思います。



レタスに続き、トマトも！ 次世代栽培技術で収穫量2倍に

ナノ物質工学科の梶山研究室は、農作物の生育を促進できるLEDライトを開発しました。このLEDライトは、光合成に有効な波長域の光である「パルス光」を照射できるのが特長です。夜間にこの光を照射すると、糖の転流量が増えて生育が促進されます。この取り組みは『大学通信アカンサス85号』の「クローズアップキャンパス」に取り上げられ、その中で「レタスなどの葉物野菜では収穫重量が増えた」ことを紹介しました。その後、レタスの栽培試験と並行してトマトの栽培試験を行った結果、果実の数が2倍、糖度も平均15%高くすることに成功しました。現在は、この栽培技術を本学がブランディング事業として取り組んでいるアオサノリやスジ青ノリなどの陸上養殖にも応用できないか研究を行っています。

今後は、LEDライトの生育促進メカニズムの解明とビニールハウスなどの施設園芸や人工光を利用した植物工場への実用化研究を進めていきます。

2018(平成30)年11月18日(日)▶
朝日新聞(香川版)〈25面〉



『大学通信アカンサス85号』の梶山先生の特集はこちらからご覧いただけます。

